

# 秋吉台パークボランティア 第43号 11-15,2008

秋吉台パークボランティアの会 会長 末永豊明  
事務局 山口県美祢市秋芳町秋吉台山 秋吉台管理事務所内

## グリーンベルトに夢中

### 11月23日のエコツアーには 全員参加してください

秋吉台の歩道を草（シバ）で覆う。  
・こんな挑戦に夢中になっている。まず、手がけるのは、中国自然歩道になった妙見原から長者が森コースの妙見原一帯である。このコースは修復しても雨が降るとすぐ荒れてしまう道だった。これまで10年間、修復しても雨で流され、また修復しても流された。このいちごっこに終止符を打ち、秋吉台らしい道を造り出すことにした。

長年車の通行をを禁止して、放置しておけば自然に草が生えるだろう。しかし、これでは、土も、小石も流されて、道として歩けなくなるだろう。やはり、土を入れ、シバを生やすべきだ。

いよいよ10月から土とバラスを入れ始めた。大げさに言えば、未来への大挑戦だ。8月から、具体的にどのような方法で、グリーンベルトを造るか・・・会員が集まっては考え、議論をしてきた。大平さんは県土木に勤めておられた大ベテランである。貴重な助言をいただいた。

10月にはいると、雨で道に水が流れる際、水の流れを止める木を入れることにした。木島さんが道に入れる栗材や杉材を用意してくれた。この木材の周辺にシバの床を作ればよい。

11月23日には、エコツアーを開き、県内で自然の修復に関心を持つ方々にも参加していただき、じっくり語り合う場にしたと思っている。皆さんも、是非参加してください。皆さんで会を盛り上げてほしいのです。



この事業は過去10年間の修復事業をさらに一步高めて（質の転換）、新しいボランティア活動へ転換する。

考えてみると、戦後、秋吉台に観光客がやってくるのに合わせて、この道は秋吉台の中心幹線の役割を演じてきた。やがて秋吉台に有料道路ができると、自動車道としての役割はなくなり、中国自然歩道としての役割に変わった。しかし、雨で土砂が流されて、ガタガタの悪路だった。県は修復したが、すぐガタガタになってしまった。私たちパークボランティアの会がこの道の修復をはじめたのはこの頃だった。

## 弁天池や景清洞の紙芝居は私たちの純粋贈与

山口県どこでも紙芝居は、ディストネーション キャンペーンを彩る事業で、大好評でした。秋吉台では、弁天池（秋芳町）と景清洞（美東町）が参加して、大奮闘した。それぞれ、7月から9月ま



での3ヶ月間、土曜、日曜、祝祭日の30日間、10時から3時まで地域に伝わる民話を紙芝居にしたものを上演して、観光客に喜ばれた。

ここでは、私たちは観光に来られた客に真心を純粋贈与する。観光客は私たちの心に反応して喜び、私たちはその喜びに反応して喜ぶ。つまり、いつの間にか、私たちは、会ったこともない観光客と喜びを分かち合っていたことになる。

観光地では、とかくとんでもない商法が行われることがあり、いやな気持ちになることが多い。しかし、私たちは、私たちにできる範囲で、楽しい気持ちで観光にくる遠来の客に、もっと美しい思い出を持帰ってほしいと思っている。

紙芝居では、みんなでしっかり勉強して、もう一步進んだ紙芝居を作るべきだと思う。「秋吉台の紙芝居は芸術だ・・・」こんなささやきが届くといいですね。しっかりがんばりましょうね。

## 11月10日頃 萩の黄葉が始まった

立冬の声を聞くと、秋吉台の草原に草紅葉が始まる。夜の冷え込みが強くなると、草がどんどん紅葉し、最後の輝きを見せ始める。始めは、萩の葉が黄色に変わる萩紅葉だ。

今年は11月10日前後に、萩の黄葉が広がった。丁度ススキが逆光で輝き、とてもきれいですよ。



天気のいい日に、秋吉台に出ると、マツムシが苦しそうな声で、つまりながらやっと声を出している。このような悲しそうな鳴き声はどのように表現すべきか、考えた。昔から、この悲しげな鳴き声を表現するのに、「啾（しゅう）」という文字が使われてきた。

秋の虫も、立冬の頃には、本当に悲しそうな鳴き声だ。この声を聞いて人々はわびしい感じを知る。ヴィオロンのすすり泣くような音、土に潜るカエルの語る、「土の中はいやだね」という言葉は、私たちの秋の感性を増幅する。

## 美の哲学 最高に美しい人生

「美とは何か」という問題を多角的に考えてきた。そこで最後には、美しい自然や美しい人を真っ正面から考えてゆくことになる。

美しい自然とは、どんな森だろうか。やはり原生林だろうか。人類の影響をほとんど受けていない森林は、日本にはほとんどない。しかしよく見ていると、私たちの身の回りに鎮守の森が所々に残っている。この森には巨木が所狭しと生えている。森のすごさは、人の心を動かす力を持っている。やはり心を圧倒する力のある森は美しい自然だろう。

秋吉台では長者が森に原生林が残っている。第2長者が森は木を植えて40年ぐらい経っているが、まだ森になっていない。木の集まりだ。本当の森は簡単にはできない。

長者が森の中に立つと、森の力が私たちの心に響き、たくさんの事を語りかけてくる。「美しい」とは単に「きれい」と言うだけでなく、人を心を動かす大きな力を持っていることだ。



山焼きの火が岩に妨げられて入らないところでは小さな自然林ができた。この森は木が小さくて、背も低く、まだ森の力は弱い。



美しい人に話題を移そう。表面的に美しい人もいる。しかし、本当に美しい人は、真、善、美をあわせ持った人に求められるだろう。哲学者の今道友信さんは、積極的に真善美、正義を求める人の中に輝きがあり、これが美しい人だと主張している。たとえば、何も悪いことはしない人が善人ではない。積極的に真善美を求めている人には光り輝くものがある。私たちは、人格の輝きの中に真の美があることを確信した。

口先でいいことを云うのは簡単だ。これも善人だろう。しかし、どんどん実行する人と基本的に違う。積極的に善行をする人に美しい人の要件がある。積極的に美を求め、それを実行する人はまぶしく輝く美しい人だ。

この人は、私たちの心を動かす力を持っている。私たちは知らず知らずのうちに、大きな影響を受ける。そんな人は最初からいるのではない。いつも何かを追い求め、過ちを繰り返しながら、人は育つてゆく。こうして、生涯をかけて探求を続け、その成果がその人の中に積み重なり、やがて巨人になって行く。こうして美しい人が生まれるのだろう。

私たちも本当に美しい人を目指して努力したいものだ。

